



県政報告 Vol.29

2024.10月発行



愛知県議会議員 神谷まさひろ

「日記で綴る県政報告Vol. 29」をお届けします。今回は9月19日(木)から10月11日(金)まで23日間の会期で開催された9月定例愛知県議会の内容の他、委員会などで行う県内調査の内容も紹介しています。ぜひともご一読頂き、県政を少しでも身近に感じて頂けたら幸いです。



8.21 水 ▶ 愛知県がんセンターの現地調査を行いました

愛

知県がんセンターは1964年に「がん研究会」「国立がん研究センター」に次いで設立され60年に渡り実績と信頼を築いて来ました。そして本年4月に大村知事より「新愛知県がんセンターの基本構想(基本方針)」が発表され、2030年代初頭までの供用開始を目標に、2028年度この場所での建て替え工事着工に向けて、本年度は基本計画策定に向けた検討が進められています。



また、愛知県がんセンターが引き続き日本をリードし、世界で発信できる医療研究を推進していくため、米国テキサス州ヒューストンを拠点とする世界最大規模の総合がんセンターであるMDアンダーソンがんセンターとパートナーシップの形成に向けて「共同研究」「人材交流」「シンポジウム」を実施しています。

8.24 土 ▶ 通学路の水跳ねが解消しました

5

月25日、ある地区の元地区長さんから電話がありました。「通学路前の車道が傷んでいて、雨の日には車が水を跳ねて通学団の子どもたちに水しぶきが掛かるんだわ。何とかして」とのこと。

早速、現場を見て知立建設事務所に依頼。「通学の妨げにならないように夏休みに対策します」とのことでした。夏休み中、2度に分けて工事が行われ、昨日全ての工事が無事に終わりました。知立建設事務所の誠意ある対応に感謝です。



8.25 日 『野田雨乞笠おどり大会』に伺いました

この「野田雨乞笠おどり」は、正徳2年(1712年)から野田八幡宮で雨乞いの儀式として引き継がれていて、2人1組の踊り手が太鼓を中心に向かい合い「つつろ」という短いバチを持って踊る歴史の長い踊りです。戦時中の昭和17年(1942年)を最後に途絶えてしまいましたが、昭和54年(1979年)に地元から復活の機運が盛り上がり、当時の経験者の指導の下、野田青年団の協力を得て復活しました。これを機に、昭和55年(1980年)に「野田雨乞笠おどり保存会」が結成され、昭和59



年(1984年)に刈谷市無形民俗文化財に指定されました。

現在、県の無形民俗文化財の指定を目指して関係者の方が熱

心に取り組んでおられ、昨年度の愛知県の文化財保護審議会において、県指定の候補となり、指定に向けて調査を開始することになったのです。



そしてこのたび、刈谷市の文化財担当から「今後、市として本格調査に取り組むこととした」旨の報告が県に対してありました。刈谷市としては、来年度から複数年かけて調査を行う方針とのことでした。

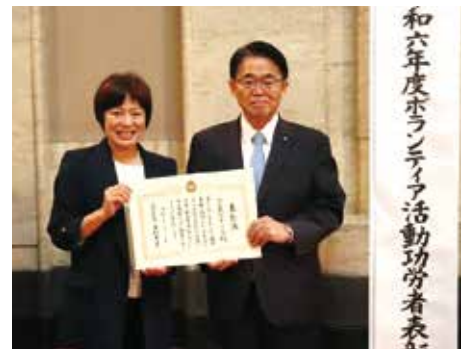
私も県議の立場としてこれからも応援して行きたいと思っております。

9.5 木 刈谷地域ねこの会 ボランティア活動功労者表彰を受賞しました

「令和6年度ボランティア活動功労者表彰式」が執り行われました。地域においてボランティア活動で多大な貢献をされている6人、41団体の皆様が受賞されました。

刈谷市では「あゆみの会」「ブーフの会」そしていつも私の事務所において猫の譲渡会をやっておられる「刈谷地域ねこの会」の3団体が受賞されました。私はただ事務所をお貸ししているだけですが、自分のことのように嬉しい

です。皆様の献身的な活動に敬意を表しますと共に、受賞を心からお喜び申し上げます。



9.19 木 9月定例愛知県議会が開会しました

9月定例愛知県議会が10月11日(金)まで23日間の会期で始まり、予算議案5件、条例議案4件、その他の議案45件の計54議案が上程されました。補正予算としては…

- ①「愛知県基幹的広域防災拠点」の整備推進
- ②児童虐待防止対策の強化
- ③新たな一時保護所の整備に向けて基本計画策定
- ④新興感染症の発生に備え、医療機関が行う施設・設備の整備に対する支援強化

- ⑤ファンドへの出資により、大学発研究シーズの社会実装やディープテックスタートアップの成長促進
- ⑥中部国際空港の活性化に向けた取組の推進
- ⑦交通死亡事故抑止に向けた交通安全対策の推進
- ⑧PFI手法により豊橋浄水場の再整備等の推進
- ⑨2028年技能五輪国際大会の開催に向けた準備

など、総額169億8,820万余円の補正予算が上程されました。

この内⑨については、「2028年技能五輪国際大会の開

催地が日本・愛知に決定した」ことを受け、その準備を進めるための予算4,100万余円を追加で計上したものです。

具体的には、大会の準備・運営を担う組織委員会の設立準備や開催気運の醸成を図るための開催決定記念イベントの開催、2024年フランス・リヨン大会組織委員会への訪問調査に係る経費のほか、WSIへの開催拠出金です。

「2028年技能五輪国際大会」は、2028年11月15日から20日までの6日間、65を超える国と地域から約5,300人が参加し、62の職種で技能の世界一を競い合います。会場については、開閉会式はIGアリーナで、各競技はAichi Sky Expoで、それぞれ実施します。

また、大会では競技のほかにも、職業教育・訓練などに関連したテーマを扱う「フォーラム」や、参加国の選手が開催地の小中学校の子どもたちと交流する「一校一國サポート事業」、次代を担う国内外の若者たちの技能や大会への興味・関心を高める「教育プログラム」など様々な催しを実施する予定です。

技能王国・愛知での国際大会開催は、日本の将来を担う若者の技能の向上と、日本における技能尊重の気運醸成に繋がる絶好の機会になると確信しています。



9.27 金 消防職員の大型免許取得は自費か？公費か？

本 日の一般質問は自民党6名、あいち民主2名の議員が登壇しました。

あいち民主の高橋正子議員の質問の中で「消防職員の大型免許取得は自費か？公費か？」というテーマで非常に興味深い問題提起をされた質問がありました。

県内の消防本部において「公費」「自腹」の現状はどのようになっているかと言うと、愛知県内34消防本部の内「全額公費負担」にしているのは名古屋市と一宮市のみ。反対に全額自腹で取得しなければならないのは、岡崎市・西尾市・犬



(写真:答弁する防災安全局長)

山市・小牧市・岩倉市・田原市・知多南部消防組合・西春日井広域事務組合の8消防本部。残りの24消防本部は一部公費負担で、補助の上限額は市町村の財政状況もあり、各消防本部によってバラバラです。



今では、タクシーやバスドライバーの2種免許やトラック運転手に必要な大型免許の取得にあたっては、条件付きで会社が手厚く全額負担するのが当たり前の世の中です。そうした中、消防への強い使命感と責任感を持って緊急で消防車両を走らせている消防職員の大型免許取得こそ、「全額公費負担にすべきではないか」と私は思います。

10.1 火 STATION Aiの議員向け内覧会に参加しました

10 月31日(木)、名古屋市鶴舞にオープンする国内最大のオープンイノベーション拠点STATION Aiの議員向け内覧会に参加しました。

延べ床面積26,300㎡、地上7階建て、運営はソフトバンクの100%子会社であるSTATION Ai(株)、この拠点においてスタートアップ企業の創出育成、オープンイノベーションの促進を目的に様々な支援を提供して行きます。開館当初500社を超える国内外のスタートアップ企業、200社を超えるパートナー企業やVCなどの支援機関や大学等がSTATION Aiに参画して、新規事業の創出に取り組みます。

またSTATION Aiには、スタートアップをはじめとする新規事業創出に取り組む人々のためのオフィス、フィットネスジム、テックラボに加え、一般の方も利用可能なカフェ・レストラン、ホテル、イベントスペース、あいち創業館が併設されています。



イノベーションは多くの人が偶然に出会い繋がることで生まれます。STATION Aiとは「可能性が出会う場所」です。

10.4 金

委員会一般質問「衣浦トンネルや衣浦豊田道路の有料区間を無料に」

私

が所属します建設委員会が開催され、一般質問において「衣浦トンネルや衣浦豊田道路の有料区間（知立市新林町から国道1号を跨ぎ、豊田市生駒町までの約4.3Km）を無料に出来ないか？」と質しました。

回答としては、「衣浦トンネルは2029年で償還満了予定の未償還金が52億円あり、衣浦豊田道路は2034年で償還満了予定の未償還金が159億円あるため、無料にするのは難しい」とのことでした。



ところが、毎年返済している額は衣浦トンネルは年間約4億円、衣浦豊田道路は年間約1億円ですから、このペースでは料金徴収期限を迎えても未償還金が残ることになるのです。

それはなぜか…当初の計画通りの償還が出来ていない、つまり計画通りの通行量がないということであり、投資した資金に見合うだけの十分な活用がされていないということの意味しているのだと思います（答弁の中では現在の交通量と計画の交通量とを比較すると衣浦トンネルでは約8割、衣浦豊田道路では約5割と回答していました）。その結果、衣浦トンネルも衣浦豊田道路も交通容量に余裕があるのに、その近くにある道路（例えば衣浦大橋など）は渋滞で悩まされているという結果になっています。

全国には、地元自治体等が有料道路の未償還額を負担し、早期に無料開放した事例もありますから、衣浦トンネル・衣浦豊田道路の未償還額については、愛知県が負担し一括返済することで、早期の無料化を実現することを要望しました。利用料金の収入を放棄してでも、沢山の市民・県民に利用して貰った方が、施設の有効利用であり市民・県民へのサービスとなるはずです。

10.11 金

「18歳までの医療費無料化」県の負担を拡充して、市町村の負担を減らそう

9

月定例愛知県議会の最終日。私は「18歳までの医療費無料制度の実施を求める」請願に賛成しました。

先の「県政報告Vol. 28」6月28日の日記の中でも書いたのですが、刈谷市では来年4月から医療費を入院・通院共に18歳年度末まで無料にすることが決まっています。「既に拡充が決まっているのだから今更請願に賛成しなくても良いのではないか」といった考え方もあります。しかし、この子供医療費の無料化の財源はどうなっているかというと、愛知県が「入院は中学卒業まで」「通院は小学校入学前まで」の部分の2分の1を負担し、それ以上に拡充する部分は全て市町村が負担しているのです。そして、県内の市町村がこの制度をここ数年拡充しているにも拘わらず、愛知県のこの負担割合は17年間変わっていないのです。

従って刈谷市の今回の拡充により刈谷市としての負担額は約1億2000万円UPすることになります。私は愛知県の負担部分を拡充することにより（年齢を引き上げるか、2分の1という負担割合を引き上げる）、それぞれの市町村の負担を減らすべきだという考え方で賛成したのです。

結果は「賛成少数」で、請願は不採択となってしまいました。残念です！

